

## 保育の技術(3) 援助について

原口 純子

### 理解と援助

もとより援助とは対象を理解することの上に初めて成り立つものです。ですから、理解と援助とは一ならぬ地域に、高級精密医療機器を贈り、使いこなせないままに雨漏りで壊れて倉庫に眠っているというたぐいの話を新聞で見たことがあります。対象の実情に対する認識も理解もあいまいのままに、贈り手の側の都合や利益で援助をするところはぐなことになり、贈り手は援助したつもりでも、された側はどの助けにもなっていないということです。

かつて、発展途上国に対する援助で、電気もまま

育における援助でも同じことです。

同じ事が保育の中でもおこります。特に父母参観のからむ大きな行事、例えば運動会や子ども劇場（生活発表会）などに見られます。一見すばらしくできているのですが、幼児の成長の助けとなる経験をさせていないような活動です。

援助は時に為にならないばかりか対象を堕落させ、自立を阻害することもあります。

甘やかすというのは、言い換えれば、過ぎたるあ

やまつた援助なのです。幼児の成長や心にそぐわない援助を大人の側の気持ちや都合を充たすために行っているうちに依存の安易さになれたにすぎないのです。

また一方、同じ海外援助でも民間ボランティア団体などによる活動で、地域の人々と共に生活し、地域の手工芸の伝統文化を大切にしながら、それが生活の自立へつながるような援助や、その地域で本当に求められている井戸を掘るとか、子どもの学校

を作るなど、地域の実態に即した援助もあります。

これらのことから考えると、援助というのは、自ら育つ力を信頼しつつ、今ある実態にほんの少し力をかけて、自らの成長を助ける事なのです。今ある実態への「理解」なしに適切な「援助」は成り立たないのであります。

### 共感的理解と援助

共感的理解と援助は根本でつながっていると思いま

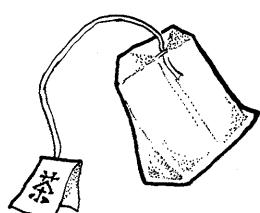
す。幼児の気持ちに寄り添い共に分かって

あげるというのは、即

援助で、気持ちを癒すことにつながります。

心を寄り添わせることが援助になるのです。

カウンセリングマイン



ドと言われるものも同じ」とです。

受容と援助も同様です。受け入れるということ  
が、幼児の心を支えているからです。

#### 事例 先生見てて見てて

縄とびを練習しているとき、フープの回し方を練習しているとき、幼児はけたたましく保育者を呼びたて、見ていることを求めます。保育者がそばにいて見ていることは幼児のやる気を励します。そばにいて、その幼児に注目することが、幼児の心を受け入れ、縄とびをする気持ちを援助しているのです。

援 助とおせっかいは紙一重なのです。よかれ思  
う援助も、幼児の思いとかみ合わなければ、やらな  
い方がましだったということになります。しかし、  
担任といえども常に幼児の心や意図を十分に汲み取  
れるわけではなく、誤解も読み違えもまま起ること  
です。ただ、「マットを足したらどうして急に遊び

を出して、まま」とをしていると、お客様が次々にきて、マットがいっぱいになりました。狭くなつた様子を見て、担任がもう一枚マットを出して、テーブルを中央に移動したところ、場は急にしらけて、まま」とは終わってしまいました。

共感的幼児理解はこころの援助でもあるのです。

#### 援助とおせっかい

#### 事例 ままことが終わった

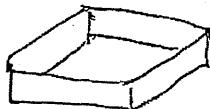
五歳の幼児四人がおすもうマットの上でテーブル

が終わったのかな」ということに疑問や反省があれば、援助することの新しい意味がわかるかもしれません。見守ることも、幼児にまかせてみることも援助なのです。

年長児になると、幼児の主体的な遊び場面で、保育者の出番が少なくなるというのは、自分達の思いがはつきりして、細々した保育者の援助を必要としなくなっているということかも知れません。

### 援助は幼児の思いや思考から立ち上げる

援助をするというのは一方的に大人の知恵や技術を教え与えてしまうことではなく、(年齢や育ちによって対応はことなるが) 幼児なりの思考や思いに添わせながら、一緒に考えたり、やってみたり、



図

### 事例 豆まきの升作り

年長五歳児に豆まきの時に使う各自の豆を入れる升作りをすることになりました。コーナーに空き箱や色紙、色画用紙など材料を整え好きな形を作ることにしました。折り紙で豆を入れる箱を折る幼児、牛乳パックを利用して作る幼児と様々でしたが、K夫とR夫は豆が沢山入るようにと色画用紙で底辺の広い浅い入れ物を作りました。(上図)。豆まきの日に、豆を入れたら両手で持たなければならない扱いにくい箱に往生しながら、「今度は違うの作る」と言つて、材料コーナーで深い入れ物を作りなおしました。

大人の眼からすれば、豆を入れるのに浅い柔らか

確かめたりしながら足場をかためていくことであり、結果より過程を大切にすることなのです。

い箱では扱いにくいのはわかつていますが、担任は思うとおりにやらせて見て います。幼児は失敗したり、つまずいたりしながら、経験を通して学ぶことで、彼らの思考や成長を促しているのです。

援助というのは、目先の“お助けマン”ではなく、人間としてどう育つてほしいかというイメージに立って、対象の自立や成長を促す為の、一見不親切で厳しいものなのです。

### 制限という援助

受け入れるということが協調されるあまり、どう

制限したらよいか迷う保育者は結構多いのです。自主性が強調される今日、しかつたり、指導することはなんとなくはばかられる雰囲気があるからです。けれども、生まれてたった三年から五年しかたつてない幼児に、好きにしてよいが、責任を取りなさいとはいえないのです。共に社会の一員として、快

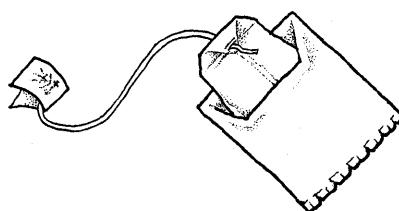
適に生活するためのすべを教えておくことも必要な援助です。制限についての考え方、きちんとしないと、受容が安定しないのです。

### 事例 あざだらけの新任教諭

新任教諭のM子さん

は、幼児理解が大切

だ、幼児の心は受け入れなければならない、また一人一人の幼児としつかり関わることが大切です、とはなんとなくはばかられる雰囲気があるからです。けれども、生まれてたった三年から五年しかたつていない幼児に、好きにしてよいが、責任を取りなさいとはいえないのです。共に社会の一員として、快



情を理性でおさえて、ひきつったような笑顔を作つて保育をしていました。

M子さんの大変な努力にも

関わらず、クラスの中は無法地帯のようになつて、受け入れているはずなのに、どの児童にも居心地の

よいものとはならず、登園拒否の児童がでたりして、主任の教諭がしばらく一緒に保育を手伝うことになりました。

保育において、児童の心を受け入れることは大切ではありますが、人間を育てるという観点から物事を考えなければ、このようになんのために受け入れているのかわけの分からぬことに成つてしまします。これは丁度、栄養で、カルシウムが大切だと聞いて、カルシウムばかりとつて栄養のバランスを欠いて体をこわすようなのです。

保育というのは、ごく普通の人間の生活感覚を大切にしてよいのではないかと思ひます。保育者自身

が不快に思うことをむりやり我慢しながら保育するなどもとよりよからうはずがありません。自主性を育てる保育も、主体性を育てる保育も非常識の上に成り立つものではないのです。

制限や禁止、しかること、注意などの指導は受け入れることよりずっと複雑で難しいことです。表出された行動の背景や動機、それに至る過程が重要であり、児童の心に添つた対応が求められます。

何を禁止するか、どの状況を注意するかも、保育者の許容度によつて異なります。児童の気持ちは受け入れるけれども、行動は禁止しなければならないものもあります。失敗したり、相手に迷惑をかけてしまつた心もまた抱きとめなければならぬのです。

制限とか禁止とかかかるなどについては、園内研修で事例をもつて話し合うことがござれます。

(洗足学園短期大学)